

令和7年度みえっこの声



三重県子ども・福祉部少子化対策課

目次

- 1 みえっこ会議の概要
- 2 届けられた意見への対応
 - (1) 1班（ロクレンジャー）
テーマ「いじめ」
 - (2) 2班（つぎょうざすんだもち）
テーマ「文化継承でより良くつながりのある地域に」
 - (3) 3班（チーム田中）
テーマ「子どもの意見表明」
- 3 参加した委員の感想
- 4 三重県からのメッセージ

1 みえっこ会議の概要

1 みえっこ会議とは

三重県子ども条例に基づく取組として、小学校4年生から高校生世代まで幅広い世代の子どもが委員となり、県の子ども施策について学んだうえで、県に意見を届ける会議です。

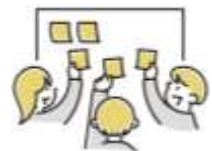
2 委員の内訳（計15名）

小学生 2名（4年生1名、6年生1名）
中学生 3名（1年生2名、3年生1名）
高校生 10名（1年生2名、2年生6名、3年生2名）



3 みえっこ会議の活動

令和7年7月19日（土）	顔合わせ・事前学習会
7月26日（土）	グループ分け・テーマ決め
8月18日（月）から22日（金）	グループワーク
8月24日（日）	発表会



2 届けられた意見への対応

みえっこ会議では、委員がテーマに関する想いや背景、課題意識を話し合い、最終的に「～してほしい」という提案にまとめました。

これらは、子どもが自らの経験や思いをもとに真剣に考えたものであり、令和8年度の施策に活かすべき貴重な声です。

県では、その声をひとつひとつ大切に受けとめて、「来年度にどうしたらいいか」を考えました。すぐにはできることもあれば、時間がかかることもあります。委員の意見をもとに、県の取組や予算を見直したり、新しいことを始めたりしていきます！

2 届けられた意見への対応

1班 テーマ：「いじめ」

1班（ロクレンジャー）は「いじめ」をテーマに話し合い、意見を県に提案するまでに、様々な委員の想いや課題意識が挙がりました！

○暴力的ないじめよりも、精神的ないじめやインターネット上でのいじめが多く、周囲が気づきにくいケースがある。

○対面で相談するよりも、インターネットを活用するなど、匿名の方が相談しやすいと感じる子どももいる。

○いじめの被害者だけでなく加害者にもカウンセラーを付けて、寄り添ってほしい。

様々な意見をもとに、県への提案を届けました！（次のページへ）



2 届けられた意見への対応 1班テーマ：「いじめ」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

意見への対応

県への提案①

学校ごとに、カウンセラーや担任以外の先生に相談できる体制を作してほしい。



現在、心理の専門的な知識を持っているスクールカウンセラーを県内全ての公立小中学校、高等学校、特別支援学校、夜間中学に置いて、学校ごとに相談体制を整えています。また、学校の先生やスクールカウンセラーに相談しにくい場合でも、子どもが自分に合った相談先を選びやすいよう、相談窓口をまとめた一覧表「ひとりで悩まず相談しよう」を全ての学校に広めています。

さらに、今年度、子どもや先生、保護者向けに、子どもの権利や子どもの意見を届ける「子どもアドボカシー」について学ぶ動画や資料を作成しています。この動画では、子どもの権利を理解し、困ったときの相談方法を学ぶとともに、誰もが子どもの思いを尊重して支援につなげるための考え方を学ぶことができます。

2 届けられた意見への対応 1班 テーマ：「いじめ」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

県への提案②

学校で配布されている1人1台端末を活用し、インターネット上で相談できる仕組みを学校単位で設けてほしい（県全体で1つの相談フォームでは対応が難しいため）。



意見への対応

県では、全ての学校に対して、1人1台端末を活用した健康観察や、教育相談に使えるシステムの一覧やマニュアルをお知らせするなど、子どもが相談しやすい体制づくりを進めています。

相談の仕組みや方法は、市町や学校によって異なりますが、こうした「インターネットで相談したい」という声があることをしっかりと受け止め、子どもが学校ごとに安心して相談できる体制となるように、これから丁寧に働きかけていきます。

2 届けられた意見への対応 1班 テーマ：「いじめ」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

県への提案③

いじめの被害者だけでなく加害者にもカウンセラーを付けて、寄り添ってほしい。



意見への対応

県では、いじめの被害者だけでなく、加害者を含めたすべての子どもがスクールカウンセラーに相談できる体制を整えています。

加害者にも、その子どもの状況に合わせた支援を選択できるよう、相談の機会をつくるなど、学校ごとに工夫しています。

また、被害者と違うカウンセラーへの相談が必要な場合には、別のカウンセラーをすぐに派遣できる体制もあり、柔軟に対応しています。

これからも、子ども一人ひとりの状況に寄り添いながら、すべての子どもに心のケアが届くような支援を行っていきます。

2 届けられた意見への対応

2班 テーマ：「文化継承でより良くつながりのある地域に」

2班（つぎょうざすんだもち）は「文化継承でより良くつながりのある地域に」をテーマに話し合い、意見を県に提案するまでに、様々な委員の想いや課題意識が挙がりました！

○県のHPは子どもが見る機会が少なく、チラシを配布されても興味を持たず、子どもが自主的に文化を体験することが少ない。

○三重県の文化に関する情報は、子どもが情報を手にしにくく、興味を持ちにくい現状がある。

○誰かに必要とされたり、心のときめきを誰かと共有できる居場所を文化継承の場所にできないが。

様々な意見をもとに、県への提案を届けました！（次のページへ）



2 届けられた意見への対応

2班 テーマ「文化継承でより良くつながりのある地域に」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

県への提案①

三重県の文化施設や史跡、文化体験について、HPやSNS等を活用して、子どもに分かりやすく、興味を持てる情報を発信してほしい。



意見への対応

県では、文化施設や伝統産業、文化財などの情報を、HPやSNS（X、Facebook、Instagram、YouTubeなど）を通じて発信しています。

○文化に関する主なSNS

- ・総合博物館（X、Facebook、Instagram） 県立美術館（X） 県立図書館（X）
- ・斎宮歴史博物館（X、Instagram） ・「三重の文化」（X、Facebook、Instagram）
- ・三重のお祭りアーカイブ（HP） ・「Crafted MIE」（Instagram）
- ・みえのお祭り（Instagram）

また、令和9年度には、スマートフォンやパソコン、タブレットなどで使える「子ども向け情報ポータルサイト」を新しく構築して、子どもに関係する大切な情報をまとめて掲載する予定です。このサイトを活用して、文化に関するイベント情報も子どもに分かりやすく発信する予定です。イベント情報を発信する際は、子どもが興味を持てるよう、過去のイベントの様子を写真で分かりやすく紹介するなど、子どもが「行ってみたい！」と思えるような工夫を行っています。

2 届けられた意見への対応

2班 テーマ「文化継承でより良くつながりのある地域に」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

県への提案②

子どもが文化体験できる機会を増やしてほしい。



意見への対応

県では、色々な部署で子どもが文化にふれる機会を提供しています。例えば、

- ・三重県生涯学習センターには、小学校などを対象に、狂言や和太鼓、十二単などの着装が体験できるプログラムがあります。また、総合博物館みえむや県立美術館では、楽しみながら三重の自然や歴史・文化、美術作品などを学べるワークショップ、高宮歴史博物館では、発掘体験などを開催しています。【環境生活部 文化振興課】
- ・商業施設や県内企業と連携し、陶芸体験や組紐のストラップ作りなど、伝統産業を体験できるイベントを行っています。【雇用経済部 県産品振興課】
- ・R8年度には、三重県桑名市で「近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会」が開催されます。この大会では、各地域に伝わる祭りなどの民俗芸能が集まり、会場では民俗芸能の様子が再現されるため、伝統文化を見て楽しむことができます。【教育委員会 社会教育・文化財保護課】

今行っている取組が子どもに十分届いていないという課題もあるため、新しく構築する「子ども向け情報ポータルサイト」を活用して情報を分かりやすく発信するなど、子どもがより多くの文化体験に参加できるよう取り組んでいきます。

2 届けられた意見への対応

3班 テーマ：「子どもの意見表明」

3班（チーム田中）は「子どもの意見表明」をテーマに話し合い、意見を県に提案するまでに、様々な委員の想いや課題意識が挙がりました！

○今回のみえっこ会議は高校生が多く、小中学生の意見表明が少なく感じた。また、大人がいて安心する一方、話しにくいことがある。

○子どもの意見を行政に伝えたい思いがあるが、子どもの意見が伝わりづらい現状がある。

○子どもの意見を言うきっかけ作りがあるとよい。

様々な意見をもとに、県への提案を届けました！（次のページへ）



2 届けられた意見への対応 3班 テーマ「子どもの意見表明」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

県への提案①

子ども会議（小中学生対象の会議や、大人が介入しすぎないような会議など）を増やして、意見表明の場を設定してほしい。



意見への対応

今年度の「みえっこ会議」では、小学生から高校生までが混ざった形でグループ分けを行いました。年齢の違いから、子どもが意見を出しづらい場面もありました。こうした反省をふまえ、来年度の「みえっこ会議」では、年齢に応じたグループ分けを行うなど、子どもが話しやすい環境をつくっていきます。

また、大人が意見を誘導したり介入しすぎないように、会議の時間を十分に確保し、子どもが落ち着いて意見をまとめ、安心して発表できる会議の進め方を考えており、そのための予算を準備しています。

「みえっこ会議」以外にも、今年度から実施している「キッズ・モニター+」では、小学生や中学生を対象に対面やオンラインで意見を聴くイベントを実施しており、来年度も様々な意見表明の機会を設定する予定です。

2 届けられた意見への対応 3班 テーマ「子どもの意見表明」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

県への提案②

会議だけでなく、オンラインフォームや駅での意見箱、学校でのWEBアンケートなど、県に子どもの意見を届けやすい環境を作してほしい。



意見への対応

今年度から実施している「キッズ・モニター+」では、会議形式の他にも、オンラインやアンケート形式など、子どもが自分に合った方法で意見を表明できるような機会を設定しています。

こうした取組を通じて、会議に参加する以外の方法でも、子どもたちの声が行政に届くような環境づくりを進めており、来年度も引き続き行う予定です。

2 届けられた意見への対応 3班 テーマ「子どもの意見表明」

みなさんが届けた提案に対して、次のように三重県は対応します。

県への提案③

提案①・②に対する取組について学校で周知するために、先生やチラシを通じたPRを行い、認知度を高めたい。



意見への対応

子どもの意見表明に関する情報は、これまで学校を通じて募集チラシなどを紙で配付する、アナログな方法で周知してきました。しかし、県内の児童生徒一人ひとりにチラシを配布することができず、情報を知らないまま機会を逃してしまうという課題があります。

こうした課題をふまえ、令和9年度には、スマートフォンやパソコン、タブレットなどで使える「子ども向け情報ポータルサイト」を新しく構築して、子どもに関係する大切な情報をまとめて掲載する予定です。このサイトを1人1台端末に導入し認知度を高めることで、子どもが自分の力で情報を見つけ、興味のある取組に参加できる環境を作っていきます。

3 参加した委員の声



県に意見を届けるという
貴重で良い体験をすることが
できました。

自分の意見を尊重して聞
いてくれている感じがして、
良かったです。

子どもの意見を表明できる
ような場を増やして欲しい
と思っています。



3 参加した委員の声

グループ内で「それいいね」と言えたり、取り入れてみてみんなの意見にしやすい雰囲気だったので、とても話しやすかったです。



もう少し、子どもが考えやすい雰囲気、環境を大切にしてほしいです。

4 三重県からのメッセージ

短い間で、たくさんの素晴らしい意見を届けてくれてありがとうございました！
届けられた声をしっかり受け止め、来年度の取組に活用していきます。
これからも、一緒により良い三重県をつくっていきましょう！！

